

# SLOの可能性

## ～ bluepeak™ と multicolor™ ～

**日時** 平成26年11月29日(土) 8:00-9:00 **会場** 第3会場(特別会議場)



**座長**  
**白神 史雄** 先生  
(岡山大学)

1980年 岡山大学医学部卒業  
1984年 岡山大学医学部大学院修了  
1991年 岡山大学医学部眼科講師  
1997年 岡山大学医学部眼科助教授  
1998年 エモリー大学(文部省長期在外研究員)  
2002年 香川医科大学眼科教授  
2003年 香川大学医学部眼科教授  
2013年 岡山大学医学部眼科教授  
現在に至る

SLO(Scanning Laser Ophthalmoscope)の画像といえば、まず思い浮かぶのはフルオレセインやインドシアニングリーンを造影剤に用いる蛍光眼底造影画像や、赤外光で眼底を走査するIR画像ではないだろうか。どちらの画像も眼底の形態を評価するには今や不可欠であり、読影法もほぼ確立されたといっても過言ではない。

しかしながらSLOの可能性はこれに留まらない。ハイデルベルグエンジニアリング社のSpectralis®といえはアイトラッキングシステムを駆使した高解像OCTで有名だが、多様な共焦点SLO画像を取得できる事も大きな特長の1つである。

例えばSpectralis®に搭載されているbluepeak™は、青色光源にてRPE内のリポフチンを励起し、その自発蛍光を撮像できる機能であり、眼底の形態のみならず機能の評価を行える画像が取得できる。

また、同じくSpectralis®に搭載されているmulticolor™は、青色光源・緑色光源・赤外光源の、組織深達度の異なる3色にて眼底を走査することによって、浅層・中層・深層それぞれの病巣部が強調描出されたカラー眼底画像を構築する機能であり、眼底カメラとは異なった付加価値画像が取得できる。

本セミナーでは、これらのSLO機能を臨床で活用しておられるエキスパートの先生方に、「どのように見え、どのように理解し、どのように活用するか」という臨床現場で役立つ情報を紹介して頂く。鹿児島大学の園田祥三先生と中村眼科医院の中村竜大先生には、それぞれ大学臨床医と開業眼科医の立場からmulticolor™について、大阪市立大学の河野剛也先生にはbluepeak™についてお話し頂く。何れについても臨床現場におけるSLOの底力を再認識させられる興味深い情報が満載の講演となることは間違いないだろう。

### 青励起眼底自発蛍光でわかること



**演者**  
**河野 剛也** 先生  
(大阪市大)

1985年 大阪市立大学医学部卒業  
1988年 大阪市立大学大学院医学研究科卒業  
1988年 大阪市立大学医学部助手  
1993年 同上 講師  
1995年～1996年 ベルギー国、セント大学留学  
2002年 大阪市立大学大学院医学研究科視覚病態学助教授(准教授)  
現在に至る

### クリニックにおける multicolor™の有用性



**演者**  
**中村 竜大** 先生  
(中村眼科医院)

2003年3月 埼玉医科大学卒業  
2003年4月 京都大学眼科入局  
2004年7月 静岡市立静岡病院  
2009年4月 中村眼科医院  
現在に至る

### マルチカラーの活用方法



**演者**  
**園田 祥三** 先生  
(鹿児島大学)

1996年3月 愛媛大学医学部 卒業  
1996年5月 鹿児島大学医学部附属病院 眼科  
2000年3月 鹿児島大学大学院医学研究科  
外科系(眼科)修了  
2000年5月 鹿児島大学医学部附属病院 助手  
2007年3月 ドヘニー眼研究所 留学  
2009年6月 鹿児島大学大学院医学総合研究科  
眼科学分野 助教  
2010年8月 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院  
診療講師  
現在に至る

